

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	スポーツ教育II	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成し、良識ある社会人としてふるまうための一般教養を身に付ける(DP・CP)。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	室内で行う運動遊びや各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および室内運動靴を着用する。 実技授業であるため、フィードバックは常に個々で実施し、授業最後に総括する。		
評価方法 ※	授業への参加度(60%)・実技テスト(30%)・意欲・態度(10%)		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	子どもと造形	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・1
キャンパス※	佐倉	教室※	芸術室
学修分野			
授業目的 ※	<p>保育の目標やねらい、内容、発達段階、等の保育に関する知識に基づき、造形表現における指導・方法・支援・製作等の保育技術、保育実技を学び、習得する。(総合的な子ども理解) また、保育者に求められるコミュニケーションスキルやチームワーク、リーダーシップ、課題解決力を身に付ける。(コミュニケーションや課題解決の能力) こうした授業や造形活動を通して、保育における社会的責任について考え、自己を管理し、生涯にわたって保育や造形活動について自ら考え、学び続ける素養を養う。(使命感)</p>		
到達目標	<p>子ども期の造形活動は、日常生活の様々な体験から、美しいものや心を動かされる出来事等を感じ取り、イメージや感性を働かせながら、表現することの喜びを味わうことを重視する。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>作品製作(実技)と講義、ライティング(文章作成)、等を通じて、造形表現に関する基本的な知識や技術を習得する。事前学習では、毎回予習を行い、必要な教材(材料や資料等)を準備する。事後学習では、授業をふり返り、レポート等にまとめる。作品は画像データに記録・提出する。 ※授業の進捗によって、授業内容を変更(調整)することがある。</p>		
評価方法 ※	<p>「提出物(作品、レポート類、等)100%」を基本とする。本授業では「作品製作(実技)の過程」等を重視し、総合的に評価する。</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	健康とスポーツ	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜日1限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	<p>生体の持つ特性の一つに、生体適応が挙げられます。それは、運動刺激が適切であれば生体機能は向上し、もし運動刺激が少なければ機能低下が生じ、また運動刺激が強すぎると障害が引き起こされるという現象です。体力と健康の密接な関係から運動ならびにスポーツの重要度は増しているものの、トレーニング過多によりスポーツ障害が発生します。したがって、スポーツにおいて、個々人に対する適切なトレーニング刺激が必要とされます。この「健康とスポーツ」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりをめざす運動や競技力向上をめざすスポーツにおいて、安全な実施の基盤となるスポーツ医学の基礎と応用について学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>健康ならびに運動・スポーツに携わる専門家に必要とされる、運動生理学ならびにスポーツ科学に基づく健康とスポーツについて理解し説明できる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>「健康とスポーツ」では、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえ、日常生活において自発的かつ積極的な運動・スポーツ実践に発展させていくことを目標とする実用的な内容を目指します。</p> <p>この授業では、グループでのディスカッションやグループごとの発表なども行います。</p>		
評価方法 ※	定期試験60%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点40%		
評価基準			
テキスト	原則としてプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	コミュニケーション論	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜日・2限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	さくらホール
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を学び、理解する。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解する。 3. 学んだ知識やスキルを活用し、様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方について考えることができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 授業ガイダンス・コミュニケーションの概要(目標1)</p> <p>第2回 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1)</p> <p>第3回 共感的傾聴(目標1,2,3)</p> <p>第4回 アサーション(目標1,2,3)</p> <p>第5回 感情のコントロールとコミュニケーション・スキル訓練(目標1)</p> <p>第6回 説得的コミュニケーション(目標1,3)</p> <p>第7回 対人援助とコミュニケーション(目標2,3)</p> <p>第8回 子どもを相手としたコミュニケーション(目標2,3)</p> <p>第9回 教育場面におけるコミュニケーション(目標2,3)</p> <p>第10回 発達障害児へのコミュニケーション支援(目標2)</p> <p>第11回 共感的なコミュニケーションのロールプレイ(目標3)</p> <p>第12回 障害・困難を抱える人へのコミュニケーション(目標2)</p> <p>第13回 対人援助チームにおけるコミュニケーション(目標3)</p> <p>第14回 医療場面におけるコミュニケーション(目標2)</p> <p>第15回 プレゼンテーション・ICTを活用したコミュニケーション(目標1,3)</p>		
評価方法 ※	<p>授業への参加態度と提出物の提出の有無と内容、期末試験の結果などから総合的に評価する。</p> <p>授業の参加態度と提出物の記入内容 30%程度、期末試験 70%程度</p>		

評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を理解し，説明できること。 2. 教育や医療の専門職として，実際の対人場面でのコミュニケーションを理解し，説明できること。 3. 様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方を自分なりに工夫できること。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	スポーツ教育II	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成し、良識ある社会人としてふるまうための一般教養を身に付ける(DP・CP)。		
到達目標			
授業内容 授業形態	室内で行う運動遊びや各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および室内運動靴を着用する。 実技授業であるため、フィードバックは常に個々で実施し、授業最後に総括する。		
評価方法 ※	授業への参加度(60%)・実技テスト(30%)・意欲・態度(10%)		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします(CP2.3・DP2.3)。		
到達目標	それは、今日、とくとくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。到達目標はこれらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点、確認試験で評価します。		
評価基準	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	公共政策論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2023年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	自治体の活動を中心に、公共政策に関する幅広い知識を持つことを目的とする。		
到達目標	自治体における公共政策の概要及びその課題について説明することができる。		
授業内容 授業形態 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の活動を中心に、公共政策の分野ごとの概要について学ぶ。 ・テキストを読むだけの学びではなく、日頃から公共政策に関する新聞記事やニュース等に関心を持ち、公共政策の何が課題であるかを考える訓練を習慣としてもらう。 ・授業は講義を中心とするが、受講生同士、教員との意見交換を行ってもらう。このように、この授業は受け身ではなく、受講生の積極的な授業参加を求める。 ・地方公務員を志望する学生、公共政策に興味のある学生の履修を奨励する。 ・授業は、テキストの内容を中心に講義する。 ・アクティブラーニングの手法を活用し、教員からの質問に対して、他の受講生、教員を交えて意見交換する。 ・受講生が事後学習で作成したレポート（3回）について、授業中に教員が適宜講評する。 		
評価方法 ※	事後学習レポート（3回）、授業の参加態度（発言の回数及び内容）により総合的に評価する。		
評価基準	事後学習レポート：75点（25点×3回）、授業の参加態度（発言の回数及び内容）：25点 の合計100点で成績を評価する。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISBN：9784641184497, 『公共政策学の基礎 [第3版]』, 秋吉貴雄：伊藤修一郎：北山俊哉, 有斐閣, 2020年 2. ISBN：9784779306327, 『ホーンブック地方自治 [新版]』, 礪崎初仁：金井利之：伊藤正次, 北樹出版, 2020年 		

<p>注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、受講生の自主的・積極的な授業参加の姿勢が求められる。 ・テキスト1『公共政策学の基礎 [第3版]』の「第1章 公共政策学とは何か?」、「第2章 公共政策とは何か?」及び「第13章 公共政策管理のシステム」について学ぶ。なお、同テキストの全ての章については、「政策過程論」の授業で学ぶ。 ・テキスト2『ホーンブック地方自治 [新版]』の「第Ⅲ部 政策論」及び「第Ⅴ部 住民論」について学ぶ。なお、同テキストの「第Ⅰ部 制度論」、「第Ⅱ部 機構論」及び「第Ⅳ部 管理論」については、「地方自治行政論」の授業で学ぶ。
<p>授業シラバス</p>	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	地域福祉論	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを理解する ・ 医療や福祉のフィールドとして地域が政策的に注目されている理由を理解する ・ 地域福祉や地域包括ケアに関わる複数の専門職および公的機関と民間・地域住民のそれぞれの役割を理解する ・ 「地域」の多様な意味を批判的に理解する ・ 以上をとおして、受講生ひとり一人が自らの「コミュニティ政策」の視点を形成する 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の目的、多様な担い手、公と私の役割を説明できる 2. 地域包括ケアという政策課題の背景、関連諸制度の基礎知識を理解でき、相互に関係づけることができる 3. 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを説明できる 4. 授業で紹介した具体的な地域の取り組み事例のポイントを言語化できる 5. 課題解決のための地域資源に関する幅広い視点をもつことができる <p>以上5点それぞれについて、他者に向けた言語化（小レポート作成）ができる</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>主に5つの内容を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアをめぐる関連諸制度の理解 ・ 地域福祉、地域包括ケアの目的や背景の理解 ・ 住民と専門職の連携（多職種連携含む）のありようの理解 ・ 現代の医療や福祉にまつわる諸課題（社会的排除、在宅等での看取り等）の理解 ・ 対人援助の臨床的視点 <p>なお、事前事後学習の一部として、週末に開催される地域での活動への参加を推奨することがある</p> <p>基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニングとして、必要に応じて意見を求める。DVDやビデオ等の映像資料を用いて現実の課題を理解し、そのうえで必要な政策や支援のあり方を考え小レポートの提出を求める。</p>		
評価方法 ※	ほぼ毎回の小レポート（100点）により総合的に評価する		
評価基準	小レポート 100点		
テキスト	特に指定しない。適宜、資料等を配布し、授業内で参考文献等を紹介する。		

注意事項	とくになし
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉
科目名 ※	事業計画論	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	<p>本授業の前半部分では、これまでに学んだきた「経営戦略」や「事業計画」に関する知識を、講師が実際に携わったグローバル企業（イオン、コストコ、カルフル）の経営ビジョンや戦略を、実体験を通じて学んだ事を解説しながら、再確認する授業です。</p> <p>この授業の中では、マーケティングの基本である「ビジョンと戦略」「SWOT分析」「3C」「4P」など実社会でよく使われてツールが、現場ではどのように活用しているかを、具体的な事例を用いて分かり易く、実践的に解説致します。</p> <p>授業の後半部分では、自らが関心を持つ業界について学生同士が同じグループを作り、グループワークの中で、具体的な企業を選び出し、その企業に関する「経営戦略」や「事業計画」をについて研究します。その企業に関する情報収集やデータ分析、必要に応じての現場調査をする事は、大学で学んだ事が実社会ではどのように活用されているを理解する事に繋がる。又、毎年実施している「自分自身のSWOT分析」は、自分を客観視し、自分の強み・弱みを考えた上で、自分に相応しい業界や仕事を考える上でとても良かったと受講した学生さんからはご好評を頂いております。</p> <p>このSWOT分析を用いて、企業に関する「特徴や強み・弱み」を理解する事は、将来進みたい道・職業を具体的に学べる機会にもなり、受講する学生の実践力の向上に繋がっております。</p> <p>最終レポートでは、自己のSWOT分析を通じて、自分の強みや弱みを考慮した上で、業界や就職先を選定し、グループワークを通じて学んだ企業研究の手順や報告の仕方を用いて、自分が就職したい特定の企業を研究します。この最終レポートでのプレゼンテーションに関しては、まとめ方、発表の仕方、質問力を丁寧に指導しますので、就職活動にも役に立つと思います。</p> <p>最後に、この授業は受動的授業ではなく、学生さんが主体的に学ぶ授業なので、学んだ事を他の学生さんと意見交換したり、グループワークを通じての役割分担（司会進行役、書記、発表者等）で、</p> <p>コミュニケーション能力やリーダーシップ、発言力や質問力が養えるように工夫してある授業です。</p> <p>では、皆さんの受講をお待ちしております。</p>		

<p>到達目標</p>	<p>①経営戦略や事業計画に関する基本的な知識と用語の意味を理解し、説明できる。</p> <p>②自らが関心を持つ業界に関するテーマ設定ができ、そのテーマに沿っての情報収集や現場調査を</p> <p>実践的に行え、分析結果をプレゼンテーションにまとめることができる。</p> <p>③プレゼンテーション作成や他の受講生との相互討論、講師からのコメントを通じて、問題点と課題</p> <p>が発見でき、グループメンバーとして、どの様に最終レポートに貢献できたかと具体的に言える。</p> <p>④更に、個人毎に関心のある企業を選び出し、その企業のSWOT分析やプロフィールをまとめ、自分がこの企業に入社したならば、こんな会社になりたいとのプレゼンテーションを最終レポートとし、この授業の最終目的としている。</p>
<p>授業内容</p>	<p>本授業は、事業計画策定においてこれまでに学んできた「経営戦略」や「事業計画」に関する基本的な理論や知識を再確認する共に、実際の企業ではどのように活用しているかを具体的に学ぶ事で、</p> <p>事業計画の重要性を理解してもらう。その為に、講師が携わったグローバルな小売業、イオン、コストコ、カルフルの事例を基に、実際の企業ではどのように事業計画が現場の実務とリンクしているのかを具体的な事例を通じて分かり易く解説し、受講生の理解力を高める。</p> <p>この理解力をベースに、自らが関心を持つ業界が同じである学生同士でグループを編成し、そのグループ単位で具体的な企業を選び出し、その企業に関する「経営戦略」や「事業計画」を研究する。</p> <p>その企業に関する情報収集やデータ分析、必要に応じての現場調査をグループ単位で行い、プレゼンテーションとしてまとめ上げる実践型授業である。グループワーク発表の機会を設け、他のグループとの相互討論や講師からの実践的なアドバイスにより、各グループの問題点や課題を明確にする。</p> <p>個人別の最終レポートでは、グループワーク発表を通じて学んだ企業研究の手順や報告の仕方を用いて、自分が就職したい特定の企業を選び出し、自らの力でまとめ上げられるような指導育成とフォローアップする授業です。</p> <p>更に、グループワークする上で、毎回役割分担（司会進行役、書記係、発表者）を代えながら、誰でも自分の意見を述べたり、聞いたり、まとめたり、人前で発表できる力を身に付けられるように、講師が丁寧に個別指導を行い、個人の実践力アップにも繋げていく授業内容でもあります。</p>

授業形態 ※	<p>これまでに学んだ「経営戦略」や「事業計画」に関する知識の再確認や、実際の企業でどのように活用されているかの事例研究では講義形式であるが、自らが関心を持つ「業界の事業計画」に関する調査・研究では、グループ単位によるフィールドワークとプレゼンテーションによる研究発表。</p> <p>他の受講生との相互討論や講師からの実践的なアドバイスを受けながら、最終レポートに完成させていく、アクティブ・ラーニングの手法を活用した授業形態でもある。</p>
評価方法 ※	事前学習、授業を受ける姿勢と理解度の確認、事後学習、最終レポートにより総合的に評価する。
評価基準	<p>グループワークでの活動40点（積極性、発言、課題への対応等）</p> <p>授業内容の理解度・提出課題・最終レポート60点の計100点満点</p>
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。</p> <p>授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p>
注意事項	<p>（1）予習・復習を欠かさない事。</p> <p>（2）積極的な姿勢で受講する事と、リアクションペーパーを活用した理解度や質問力を養う。</p> <p>（3）講義の内容は、毎回ノートにまとめ、配布する資料は、散逸しないように、ファイル化する。</p>
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育原理	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・2
キャンパス※	佐倉	教室※	多目的
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得をめざす。		
到達目標	教育に関するさまざまなテーマを取り上げ多様な側面からアプローチし、幼児教育(保育)に関する理解を深め、「遊び」がとって学びであることを踏まえて、深い子ども理解(保育に関する知識)と使命感(社会的責任)を備えた教育者・保育者の育成(課題解決力)をめざす。		
授業内容 授業形態 ※	<p>“子ども”の発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解のできる教育者・保育者を育成をめざすため、前半では、幼児教育のあり方の基礎となる内容－教育の本質、幼児教育の目的、幼児期の発達、教育思想などについて学習し、後半では、前半の内容をふまえ、今日の幼児教育のあり方についてより具体的に理解できるように、幼児教育の内容や方法を取り上げていきたい。</p> <p>講義形式と事例検討が中心となるので、主体的・意欲的な受講態度を求める。またともに学びあうことが可能になるような、主体的な学びとなるようにしたい。</p>		
評価方法 ※	毎授業課すレポート、提出物(80%)、授業態度(20%)をそれぞれ得点化し、総合的に判断する。		
評価基準			
テキスト	高野良子・武内清編著『教育の基礎と展開』(学文社)		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	行動科学入門	単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜日・3 限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室 2 1・2 2
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>(1) 行動のしくみ，認知，対人・社会，健康という各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できる。</p> <p>(2) 行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて理解し説明できる。</p> <p>(3) 日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について，行動科学の視点から議論できる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス（行動科学と研究手法）（目標1）</p> <p>第2回 行動のしくみ（1）；行動の生物科学的入門(目標1,2)</p> <p>第3回 行動のしくみ（2）；行動の動機づけと学習(目標1,2)</p> <p>第4回 行動のしくみ（3）；進化心理学(子育ての視点から)(目標1,2,3)</p> <p>第5回 認知（2）；マンガの認知科学（マンガの読みと理解の認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第6回 認知（1）；社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第7回 認知（3）；行動の自己制御(実行機能と非認知能力)(目標1,2)</p> <p>第8回 対人・社会（1）；対人関係(印象形成と対人魅力)(目標1,2,3)</p> <p>第9回 対人・社会（2）；対人行動(同調と内集団ひいき、リーダーシップ)(目標1,2,3)</p> <p>第10回 対人・社会（3）；集団と組織(集団の凝集性と組織規範)(目標1,2,3)</p> <p>第11回 健康（1）；感情のコントロールと精神的健康(目標2,3)</p> <p>第12回 健康（2）；精神疾患と行動上の問題(目標2,3)</p> <p>第13回 健康（3）；行動科学的アプローチによる治療(目標2,3)</p> <p>第14回 健康（4）；精神的健康増進に役立つ行動変容(目標1,2,3)</p> <p>第15回 まとめ；レポート課題のフィードバック(目標1,2,3)</p>		
評価方法 ※	<p>毎回の授業の提出物や参加態度（30%）、レポート課題（70%）</p> <p>レポート課題は，各担当教員ごとに課すものとする（第4回，第7回，第10回，第14回に課す予定）</p>		

評価基準	<p>(1) 授業で取り上げた、各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できることを合格基準とする</p> <p>(2) 授業で取り上げた、行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて説明できることを合格基準とする</p> <p>(3) 授業で得た知識を基に、日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から自分の意見を述べられることを合格基準とする</p>
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等は事前や授業中に配信する。
注意事項	<p>履修上の注意事項</p> <p>「認定心理士」資格取得には必須の科目である。</p> <p>各授業時のグループワークなどには積極的に参加すること。</p>
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	到達目標は憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準			
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	スポーツマネジメント	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	本授業の目的は、スポーツの歴史を理解し、これからのスポーツの在り方について考察をすることで、スポーツマネジメントに関する知識や考え方を習得することである。		
到達目標	①スポーツの本来的意義、スポーツの在り方について、自分自身の意見を持ち、論理的に、他者に説明することができる。 ②スポーツマネジメントに関する基本的な知識を理解しており、論理的に、他者に説明することができる。		
授業内容 授業形態 ※	本講義では、スポーツが持っている問題点と良さを学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。単純化されたスポーツ、勝つか負けるか、勝者か敗者かのメカニズムではなく、スポーツが持つ本来的意義やスポーツの在り方を問い直し、その文脈の中で、スポーツに関わるクラブやチーム、またはスポーツ活動そのものをどのようにマネジメントしていくべきか、という点について検討していきたいと思います。 その上で、講師が、これまで国内外のプロスポーツクラブに携わってきた経験をお伝えしたいと思います。 講義では、まず学生相互で事前学習の成果を共有する。次に、該当回の講義内容を60分程度、解説する。残りの20分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。		
評価方法 ※	事前事後学習の成果、レポートの成果、授業内で行う確認テストで総合評価する。		
評価基準	事前事後学習を含む毎回の課題の成果：30点、中間レポート：30点、最終レポート（もしくは確認テスト）：40点 S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	特になし		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	産業組織論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	309
学修分野			
授業目的 ※	<p>産業組織論Ⅰに続いて、さらなるテーマについて講義を行う。</p> <p>前半については企業戦略における相互作用を分析するために必要なゲーム理論の考え方を理解することを目的とする。</p> <p>後半はカルテルについての基本的理解とゲーム理論を用いた理論的考察をおこなう。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、とくに【(知識, 技能)】に資する科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寡占市場では企業がどのような行動をとるのかについて、数式を使って説明できる。 ・ ゲーム理論を使って、企業同士の駆け引きが単独で行動するときとはどのように異なるか説明できる。 ・ カルテル実現の可能性について、ゲーム理論の用語を用いて説明できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>参考書をベースに、以下のトピックを扱う。</p> <p>第01回 寡占市場の理論1：競争形態</p> <p>第02回 寡占市場の理論2：クールノー競争</p> <p>第03回 寡占市場の理論3：さまざまな寡占企業の行動</p> <p>第04回 ゲーム理論の基礎1：ゲームの定式化</p> <p>第05回 ゲーム理論の基礎2：ナッシュ均衡</p> <p>第06回 ゲーム理論の基礎3：利得表</p> <p>第07回 ゲーム理論の基礎4：利得表の応用例</p> <p>第08回 期待効用と混合戦略</p> <p>第09回 時間を通じたゲーム1：ゲームツリー</p> <p>第10回 時間を通じたゲーム2：サブゲーム完全均衡</p> <p>第11回 時間を通じたゲーム3：コミットメント</p> <p>第12回 カルテル1：カルテルとその非効率性</p> <p>第13回 カルテル2：カルテルと繰り返しゲーム</p> <p>第14回 カルテル3：トリガー戦略</p> <p>第15回 カルテル4：カルテルに関する政策</p> <p>※ なおスケジュールについては進捗状況により変更される場合がある。</p>		
評価方法 ※	<p>以下を評価ポイントとし、それぞれの加重平均で最終評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ごとにだされるクイズ (40%) ・ 総合クイズ (60%) <p>課題については返却後に結果についてフィードバックを行う。</p>		
評価基準			

テキスト	指定なし。 基本的に講義スライドを使用する。ただし以下にあげる参考書を適宜参照すること。
注意事項	「産業組織論Ⅰ」を履修済みであることを必要条件とする。また「初級ミクロ経済学」「経済経営数学入門Ⅰ・Ⅱ」「ゲーム理論」を履修済み、または履修中であることが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	経営組織論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	405
学修分野			
授業目的 ※	<p>企業は組織の一形態である。現在、日本社会や企業組織の置かれた状況を考えると、変革へのニーズは非常に高いが、安易な変革論は社会や企業を壊しかねない。組織変革を理論的に学ぶことで、組織・社会を見定め、多面的かつ批判的な思考力を磨いてもらう。</p> <p>本講義では、理論・概念との関係を意識しながら、事例を取り上げ、現実社会における「組織」の諸側面を読み解く。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）】に資する科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織変革のプロセスと本質を理解し、理論をもとに、実際の事象を説明できる。 ・実際の組織で起こる課題について、クリティカルな視点から考察することができる。 ・組織の特質について説明でき、自らの行動に繋げることができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 組織変革を学ぶ意義とケース</p> <p>第2回 変革をめぐる視点・論点</p> <p>第3回 基本的な人間観</p> <p>第4回 基本的な組織観</p> <p>第5回 組織コントロール</p> <p>第6回 ヒトの変革</p> <p>第7回 チームの変革</p> <p>第8回 使命・目的・戦略を変える</p> <p>第9回 ビジネスモデルを変える</p> <p>第10回 構造・システムを変える</p> <p>第11回 意識を変える</p> <p>第12回 組織文化を変える</p> <p>第13回 リーダーシップの変革</p> <p>第14回 変革のマネジメント</p> <p>第15回 動的組織と組織変革</p>		
評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・最終試験（65%）と、課題・小テスト・グループワーク等の成果・授業中の発言内容（35%）による総合評価。 ・小テストや課題は、授業内で全員に対するフィードバックを行う。 		
評価基準			

テキスト	特に指定しない。予習及び復習課題として使用する学習資料（動画含む）は、講義時に指示する。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は主に板書を用いて進めるので、経営組織論の専用ノートを用意すること。小テスト等で持込を許可する場合には、「ノート」は自筆のみ可とする。なお、板書の資料配布は行わない。 ・ 「経営学入門」の内容を理解していること。また、「マネジメント概論」を履修済み（または履修中）であること。なお、基本的な組織の理解を目的とし「経営組織論Ⅰ」を履修していることを希望する。 ・ 理解促進のため、取り扱う題材について、アルバイト先など自分が所属する組織に当てはめたり、ニュースや企業HP等を確認したりしたうえで、積極的に自分の考えを講義中のグループワークや課題等でアウトプットすること。 ・ 他の履修者の迷惑になる行為（携帯電話の使用（イヤホン使用も含む）、私語等）は一切禁止する。注意が守られない場合、以後の講義への参加を認めない等、厳しく対処する。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	財務会計論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	408
学修分野			
授業目的 ※	<p>財務会計は、企業が株主や債権者などの企業外部の利害関係者に対して、経営成績や財務状態を報告することを目的とした会計です。企業が作成する財務諸表は、情報提供機能と利害調整機能を十分に果たすことが求められます。</p> <p>本講義では、財務会計の基本的な概念や理論を学び、企業が財務諸表の作成・開示を行うにあたって準拠すべき考え方や具体的な会計処理の計算構造を理解することを目指します。</p> <p>この科目は、卒業認定・学位授与方針のうち、特に【（知識、技能）】に資する科目です。教員は、国内・海外の金融機関、監査法人系コンサルティング会社、メガバンクにて勤務経験があります。その実務経験を基に、財務会計における主な論点や実務上の課題について、講義を行います。</p>		
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の2点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計公準、会計原則その他の会計基準および会計処理手続きについて理論的に説明できる。 2. 個別の取引に対して会計処理の方法が採用されている理由、いくつかの代替的処理方法の中でこの方法が用いられている根拠を理論立てて説明できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回：ガイダンス、財務諸表の作成と公開①（財務諸表の体系）</p> <p>第2回：財務諸表の作成と公開②（開示）</p> <p>第3回：売上高と売上債権①（収益認識基準）</p> <p>第4回：売上高と売上債権②（売上債権）</p> <p>第5回：無形固定資産</p> <p>第6回：連結財務諸表①（連結財務諸表の作成）</p> <p>第7回：連結財務諸表②（持分法）</p> <p>第8回：中間試験、財務諸表の作成を巡る動向</p> <p>第9回：負債個別論点（退職給付債務、資産除去債務）</p> <p>第10回：税金と税効果会計①（税金）</p> <p>第11回：税金と税効果会計②（税効果会計）</p> <p>第12回：企業結合</p> <p>第13回：デリバティブとヘッジ会計</p> <p>第14回：外貨建取引等の換算</p> <p>第15回：まとめとディスカッション（テーマは事前に通知します）</p>		

評価方法 ※	課題・ディスカッションでの貢献25%、中間試験25%、期末試験50%の加重平均による成績評価とします。 課題については授業内で解説を行います。中間試験については採点後に返却し、解説を行います。
評価基準	
テキスト	桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版 授業内でレジュメを配布します。
注意事項	商業簿記Ⅰ・Ⅱの内容を履修していると、この科目の理解促進に役立ちます。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	情報ネットワーク概論	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	101
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験（ITパスポート、基本情報技術者試験など）の必要知識の一部を成すものである。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを中心とするネットワークの基本的な仕組みを理解する。（知識・理解） ・ ネットワークを使う上でのセキュリティの基本的な仕組みを理解する。（知識・理解） ・ ネットワークやセキュリティの実習を通して、実用的な知識を得る。（知識・理解） 		

<p>授業内容</p> <p>授業形態</p> <p>※</p>	<p>1 ネットワークの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LAN, WANについて学ぶ <p>2 ネットワーク方式とLANの基本構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回線交換とパケット交換、LANの基本について学ぶ <p>3 LANの構成とイーサネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トポロジー、CSMA/CDについて学ぶ <p>4 無線LAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線LANの規格とセキュリティについて学ぶ <p>5 通信プロトコル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OSI参照モデル、TCP/IPについて学ぶ <p>6 IPアドレス (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPv4について学ぶ <p>7 IPアドレス (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブネットについて学ぶ <p>8 インターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISPとインターネットへの接続形態について学ぶ <p>9 WWW</p> <ul style="list-style-type: none"> ・URL、DNS、Webアプリケーションについて学ぶ <p>10 電子メール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールのしくみとメールアドレスについて学ぶ <p>11 情報セキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク対策、ISMSについて学ぶ <p>12 情報セキュリティ対策 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルス、ネットワークのセキュリティについて学ぶ <p>13 情報セキュリティ対策 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗号方式、デジタル署名について学ぶ <p>14 情報セキュリティ対策 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証、アクセス管理について学ぶ <p>15 平常試験と総まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常試験 (第1回～第14回) と総まとめを行う <p>毎回の授業では、配布資料とテキストを使用して解説しながら、小テストを解く形式で行う。</p>
<p>評価方法</p> <p>※</p>	<p>小テスト 理解度チェックのため毎回小テストを行う。</p> <p>平常試験 理解度・到達度を評価するために、平常試験を行う。</p>
<p>評価基準</p>	<p>小テスト20%、平常試験80%</p>

テキスト	「情報ネットワーク概論」井関、金光、金、鈴木、花田、吉澤 コロナ社 978-4-339-02484-5 「令和05年 キタミ式イラストIT塾 ITパスポート」きたみ りゅうじ 技術評論社 978-4-297-13184-5☒
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2023後期）、授業科目「情報ネットワーク概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	視覚デザイン論	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	201
学修分野			
授業目的 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を視覚に訴える形で表現し伝える視覚デザインの変遷と理論を学び、現代社会におけるビジュアル・コミュニケーションの技術と効果を理解する。 ・現代の情報メディア業界や広告業界における視覚的情報伝達のアプローチを分析する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚デザインの理論に基づくコミュニケーションの効果を理解しメッセージを読み解くことができる。(知識・理解) ・レポートやプレゼンテーション、WEBデザイン等に視覚デザインの理論と表現を活かした表現を行うことができる。(汎用的技能) (総合的な学習経験と創造的思考力) ・視覚デザインに関する知的財産権と関連法について学び、情報の表現者としての自覚と高い倫理観を身につける(態度・志向性) 		
授業内容	<p>01.ガイダンス 視覚デザイン論の概要</p> <p>02.デザインの歴史1 デザインの原点・文様</p> <p>03.デジタルデザイン1 Inkscape 1</p> <p>04.デザインの歴史2 布・絹・民藝</p> <p>05.デザインの歴史3 印刷・広告</p> <p>06.デザインの歴史4 アールヌーボー</p> <p>07.デザインの歴史5 ロシア・アバンギャルド</p> <p>08.デジタルデザイン2 Inkscape 2</p> <p>09.デザインの歴史6 バウハウスとスイス・スタイル</p> <p>10.デジタルデザイン3 ロゴ&グラフィック</p> <p>11.デザインの歴史7 アールデコ</p> <p>12.デザインの歴史7 アメリカ・デザイン</p> <p>13.デザインの歴史8 コンピュータ革命</p> <p>14.デザインの歴史9 ユニバーサル・デザインとピクトグラム</p> <p>15.現代日本のデザイン 授業のまとめ</p>		

授業形態 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや映像資料を用いた講義をおこなう。 ・視覚デザイン制作を行うアプリケーションソフトを演習により習得する。 ・体系的なデザインの学習に基づいたデザイン制作をおこなう。
評価方法 ※	<p>課題 ①デジタル画像処理、②グラフィック・デザイン制作、③WEBサイトの企画・デザイン制作</p> <p>レポート 視覚デザイン分野のテーマを設定し、資料に基づいた調査・考察を行う。</p> <p>小テスト WebClassで授業内容に関する重要項目復習テストを複数回行う。</p>
評価基準	課題40%、レポート40%、小テスト20%
テキスト	
注意事項	
授業シラバス	<p>シラバス検索ページ</p> <p>https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p> <p>※開講年度学期（2023後期）、授業科目「視覚デザイン論」で検索</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	哲学入門	単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜日・4 限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室 1 4
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解できるようになる。</p> <p>2.自分とは異なる考えに対する関心を持てるようになる。</p> <p>3.ひとつの問題について、いろいろな視点から考えられるようになる。</p>		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス－哲学とはどのような学問か（目標1）</p> <p>第2回 科学と「考えること」（目標2・3） 斉一性・一貫性・整合性</p> <p>第3回 人間のコミュニケーションとは（目標1） 意味・真偽・論理的思考について</p> <p>第4回 なぜ言葉が問題になるのか（目標1・3） 思考、言語、世界と他者に向かう理解</p> <p>第5回 AI・人工知能と人間の心（1）（目標1・2） 人間の条件と他者理解</p> <p>第6回 AI・人工知能と人間の心（2）（目標1・2） 心身問題と心の哲学</p> <p>第7回 知識とは何か（目標1・3）</p> <p>第8回 自由の問題（1）（目標1・3）</p>		

授業形態 ※	決定論と因果律 第9回 自由の問題（2）（目標1・3） 懐疑論 第10回 正義を考える（1）（目標1・2） 正しさとは何か 第11回 正義を考える（2）（目標1・3） 悪いことはどのように存在するか 第12回 幸福について（1）（目標1・2） 生と死 第13回 幸福について（2）（目標1・3） 幸福はどのようにして追及されるか 第14回 道徳と「人生の意味」（目標1・2） 第15回 まとめ ここまでの振り返りと、哲学的概念分析における重要ポイントの確認（目標1・3）
評価方法 ※	平常点（授業への参加、発言、レジュメ作成等）-50% 小レポート-50%
評価基準	1.哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解できること。 2.自分とは異なる考えに関心を持てること。 3.ひとつの問題について、いろいろな視点から考え、文章で適切に表現できること。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等は事前や授業中に配信する。
注意事項	
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	心理学概論	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・5限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	101
学修分野			
授業目的 ※	<p>人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。</p>		
到達目標	<p>心理学に関連する様々な領域で取り扱っている内容の基礎を知り、人の心について発展的な考えや興味を持つことができる（知識・理解）。心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができる（汎用的技能）。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>1.心理学とは何か 心理学の成り立ちや、さまざまな学問領域の中における位置づけについて理解する。 2.脳と心理学 脳機能と心の関係について学ぶ 3.感覚・知覚 感覚や知覚の意味と仕組みについて学ぶ 4.記憶 記憶の仕組みについて学ぶ 5.学習 学習に関する心理学について学ぶ 6.思考・問題解決 思考や問題解決に関する心の働きについて学ぶ 7.感情 感情の仕組みについて学ぶ 8.動機づけ 動機づけの仕組みについて学ぶ 9.性格 性格の心理的構造や測定法について学ぶ 10.知能 知能の心理的構造や測定法について学ぶ 11.発達 人が成長していく中での心の機能の変化について学ぶ 12.ストレスと健康 心と身体の関係について学ぶ 13.臨床心理学 心の働きの異常や心理療法について学ぶ 14.社会心理学 人と人との関わりに関する心理学について学ぶ 15.まとめ及び試験 本講義の総括をし、心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができるようになったか確認をする。確認のための試験を行う。</p> <p>講義形式</p>		

評価方法 ※	平常試験 2回行われる平常試験の合計点 その他 平常点（コメント、挙手、質問、提出物、授業態度）
評価基準	平常試験80% その他20%
テキスト	
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2023後期）、授業科目「心理学概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	ゲーム制作基礎	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜・5限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	<p>コンピュータ・ゲームの制作にはプログラミング技術の取得が必要であるが、ゲーム制作に特化した開発ツールを利用することによって、プログラミング技術を習得していない者でもゲームの内部処理を学び、自分のアイデアを表現することができる。本授業は、まずゲーム制作を体験してみることで、企画立案、デザイン設計、システム開発、さらにアルゴリズムや物理シミュレーションの活用等に触れ、受講生のその先の学習・研究の方向性を見極める一つの助けとなることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想したゲームを実際に制作することによって、情報技術の基礎を習得する。(汎用的技能) ・ 過去の代表的なゲームによって表現された、「競争」や「戦略」「解決」のモデル化技術を具体例から学ぶ。(汎用的技能) ・ ゲーム制作における乱数と変数の利用、データや物理シミュレーションの活用から数学・物理学的アプローチを理解し身につける。(汎用的技能) 		

授業内容

1. ガイダンス
 - ・ 授業の目的、内容の説明
2. ゲーム制作演習の概要
 - ・ ゲーム制作のプロセス
 - ・ ツールの基本操作
3. ゲームの構成要素
 - ・ ゲームを構成する材料
 - ・ イベントとアクション
4. 代表的なゲームの分析
 - ・ レトロゲームの歴史
 - ・ シューティングゲーム
 - ・ プラットホームゲーム
 - ・ 格闘ゲーム
5. 数値の計測と制御
 - ・ 得点の仕組みと制御
 - ・ スコア、ライフ、ヒットポイント等の制御
 - ・ 数値の表示法
6. 空間の設計と制御
 - ・ RPGの構成要素
 - ・ 画面レイアウトの設計
 - ・ マップ、アイテム、障害物
7. 時間の制御
 - ・ 実時間の計測とフィードバック
 - ・ 制限時間とルール

<p>授業形態 ※</p>	<p>8. ゲーム制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレーヤー・キャラクターの制御 ・ コンピューター・キャラクターの制御 ・ 条件判定キャラクターの制御 <p>9. 物理シミュレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重力のシミュレーション ・ 加減速のシミュレーション ・ 衝突、摩擦、慣性のシミュレーション <p>10. ゲームAIの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自律制御による移動と攻撃 ・ 手加減の表現 <p>11. ゲーム制作②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームの企画 ・ システム設計 <p>12. ゲーム制作③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム・グラフィックの制作 ・ 実装とデバッグ <p>13・14.ゲーム制作④⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の分担と統合 <p>15. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作品の講評 ・ 授業のまとめ <p>講義＋演習形式で行う。WebClassを活用し、スライド、参考資料は逐次配信する。 ゲーム制作アプリケーションは主に「ClickTeam Fusion2.5 free edition」を使用する。</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>課題 4回の基礎課題、1回の総合課題を課す。基礎課題では学習効果の測定、総合課題では総合的にこの授業の学習の到達度を判定する。 レポート 講義内容に関連するテーマで調査と分析を行い、自分の考察を加えたレポートを作成。詳細は講義内で通知する。</p>
<p>評価基準</p>	<p>課題80%、レポート20%</p>
<p>テキスト</p>	
<p>注意事項</p>	
<p>授業シラバス</p>	<p>シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2023後期）、授業科目「ゲーム制作基礎」で検索</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育相談(カウンセリング含む)	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・5
キャンパス※	佐倉	教室※	205
学修分野			
授業目的 ※	<p>保育者が、子どもたち全員を対象とし、子どもの人格の健全な発達をはかるため、子ども及び保護者等に心理・教育的援助を行う際に必要な知識と技術の習得を目指す。</p>		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	<p>本学のDPである「保育者としての使命感や社会に貢献しうるコミュニケーション力・課題解決力を身につける」を到達目標とする。具体的には、乳児期から青年期までの各時期における心理発達の特徴を踏まえ、問題行動や障害について、さまざまな事例を通して学ぶ。</p> <p>本学のDPである「保育者としての使命感や社会に貢献しうるコミュニケーション力・課題解決力を身につける」を到達目標とする。具体的には、乳児期から青年期までの各時期における心理発達の特徴を踏まえ、問題行動や障害について、さまざまな事例を通して学ぶ。</p>		
評価方法 ※	毎回の講義内容についての小レポート30点+定期試験70点=100点		
評価基準			
テキスト	金子智栄子編著「教育相談とカウンセリング」樹村房		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項